

# ご支援いただいた皆さま

(敬称略)

## 協賛企業・団体

 <p><b>START TODAY CO.,LTD.</b> 株式会社スタートトゥデイ</p>		 <p>一般社団法人 <b>倫理研究所</b> 一般社団法人倫理研究所</p>		 <p><b>JAPAN AIRLINES</b> 日本航空株式会社</p>	
 <p><b>HARRY WINSTON</b> ハリー・ウィンストン・ジャパン株式会社</p>		 <p><b>POKÉMON with YOU</b> - ポケモンは いつも キミと いっしょ - POKÉMON with YOU</p>		 <p><b>三井広報委員会</b> 三井広報委員会</p>	
 <p><b>SAP</b> SAPジャパン株式会社</p>	 <p><b>浦霞</b> 株式会社佐浦</p>	 <p><b>鳥居キャスター</b> 株式会社絨毯ギャラリー</p>	<p>有限会社 <b>シーオーダブル</b> シーオー</p>	 <p><b>Quark</b> Real Watches 時計専門店クォーク</p>	
 <p><b>株式会社オガノ</b> 株式会社オガノ</p>	 <p><b>MetLife</b> メットライフ生命 MDRTメットライフ会</p>	 <p><b>CKD</b> CKD株式会社</p>		<p>毘沙門天善國寺</p>	
 <p><b>VALLE BOOKS</b> 株式会社バリューブックス</p>	 <p><b>国際ソロプチミスト神戸東</b></p>	<p><b>TOKYO CHARITY CUP 2015</b></p>	 <p><b>salesforce.org</b> Salesforce.org</p>	 <p><b>YOKOHAMA ROYAL PARK HOTEL</b> 株式会社 横浜ロイヤルパークホテル</p>	 <p><b>YAHOO! ネット募金</b> Yahoo! ネット募金</p>
 <p><b>ベネッセ 募金</b> 任意団体ベネッセ募金口</p>	 <p><b>PAL</b> 株式会社PAL</p>	 <p><b>Kiwanis</b> 国際キワニス日本地区 関西北ディビジョン 神戸・京都・西宮・芦屋クラブ</p>	 <p><b>EIKOH</b> 栄光ゼミナール 株式会社栄光</p>	 <p><b>特定非営利活動法人 北播磨市民活動 支援センター</b></p>	 <p><b>ベスト個別学院</b> ベスト個別学院</p>

株式会社アクト / 弁護士法人芦屋西宮市民法律事務所 / 学校法人麻生塾 / アトリエ・サイ / 有限会社アトリエ・デ・くきいず / 石巻特進スクール / 株式会社伊藤エステート / 株式会社エデュケーション ジェイムズ英会話 / 株式会社エフピー21 / 奥州魚河岸酒屋 天海のろばた / 加賀産業株式会社 / 有限会社家庭教育情報センター / 加藤山岳ガイド事務所 / 株式会社極東商会 / gooddo株式会社 / 熊谷組職員会 / 株式会社公文教育研究会 / クリフォードチャンス法律事務所 外国法共同事業 / グレイス英語教室 / 啓明ゼミナール / 神戸スイミープロジェクト実行委員会 / 三四郎の学校(福岡県みやこ町) / 地酒と焼酎の居酒屋 笑家 / 次世代育成プロジェクトビリーブ / 一般財団法人ジャパンギビング / 株式会社秀英英予備校 / 有限会社新教育ゼミナール / Suprievie株式会社 / ソフトバンク株式会社 / 筑西市立下館南中学校 生徒会 / 株式会社Tポイント・ジャパン / 株式会社電通 / 東北ベストスタディ株式会社 / 弁護士法人なにわ共同法律事務所 / 株式会社成文石油 / 日本基督教団川崎境町教会 / 日本キリスト教団ユウカリが丘教会 / 一般社団法人new-look / 権町倶楽部 / Harvard Business School Club of Japan / ハフアダイ語学センター / 公益財団法人パブリックリソース財団 / handmadeサークルソライロ / Pillsbury Winthrop Shaw Pittman Foundation / 特定非営利活動法人ブレンヒューマニティー / フローレンスK / ベスト学院株式会社 / 株式会社ベネッセホールディングス / 有限会社マキアカデミー マキ音楽学院 / マダムタカコカンパニー / 有限会社丸新製陶所 / 三菱地所株式会社 / 三菱地所のレジデンスクラブ / 茗深学園中学校高等学校 / 明倫通り町内会 / ヨシカル / Raidol / 株式会社リクルートマネジメントソリューションズ / 株式会社リブドゥコーポレーション・team SAMURAI / ロングエール10 (五十音順)

## 助成団体

## 「東日本大震災被災地・子ども教育白書2015」制作協力

 <p><b>ハタチ基金</b> 公益社団法人ハタチ基金</p>	<p><b>住友商事株式会社</b></p>	 <p><b>Kipply</b> KEEP HAPPIEST. MULTIPLY 株式会社Kipply(キプリイ) デザイン制作の一部を社員のプロボノ活動で ご協力いただきました。</p>	 <p><b>MUFG</b> 三菱UFJリサーチ&amp;コンサルティング 三菱UFJリサーチ&amp;コンサルティング株式会社 データ集計・グラフ作成の一部をプロボノ活動で ご協力いただきました。</p>
---	------------------------	---	---

# 財務・会計

## 正味財産増減計算書の要旨 (2015年4月1日から2016年3月31日まで)

(円)

	科目	2015年度実績	前年度実績	前年対比(%)
一般正味財産増減の部	1 受託事業収益	42,861,187	39,374,258	108.9%
	2 受取入会金・会費	65,000	65,000	100.0%
	3 受取寄付金(一般寄付金)	1,812,904	4,085,000	44.4%
	4 受取寄付金等振替額(指定正味財産からの振替額)	109,271,576	96,968,688	112.7%
	5 受取補助金	2,967,970	0	—
	6 雑収益	2,031,365	1,319,866	153.9%
	収益計	159,010,002	141,812,812	112.1%
	1 事業費	142,090,779	127,443,225	111.5%
	人件費	38,488,976	36,600,207	105.2%
	パウチャー利用額	64,278,109	59,507,378	108.0%
	その他事業費(CFC東日本・西日本事業)	20,418,464	16,864,237	121.1%
	その他事業費(受託事業)	18,905,230	14,471,403	130.6%
	2 管理費	16,907,223	14,385,629	117.5%
	人件費	5,472,524	2,089,602	261.9%
その他費用(地代家賃・事務費等)	11,434,699	12,296,027	93.0%	
費用計	158,998,002	141,828,854	112.1%	
当期経常外増減額	▲ 12,000	0	—	
当期一般正味財産増減額	0	▲ 16,042	—	
一般正味財産期首残高	6,577,037	6,593,079	99.8%	
一般正味財産期末残高	6,577,037	6,577,037	100.0%	
指定正味財産増減の部	1 受取賛助会費(パウチャー事業指定)	12,736,174	7,118,296	178.9%
	2 受取寄付金(パウチャー事業指定)	79,153,304	83,500,390	94.8%
	3 受取補助金等(パウチャー事業指定)	29,856,546	33,605,492	88.8%
	4 一般正味財産への振替額	▲ 109,271,576	▲ 96,968,688	112.7%
	当期指定正味財産増減額	12,474,448	27,255,490	45.8%
	指定正味財産期首残高	113,000,855	85,745,365	131.8%
指定正味財産期末残高	125,475,303	113,000,855	111.0%	
正味財産期末残高	132,052,340	119,577,892	110.4%	

## 貸借対照表の要旨 (2016年3月31日現在)

(円)

	科目	金額
資産の部	1 流動資産	16,886,547
	普通預金	12,792,470
	未収入金等	4,094,077
	2 固定資産*	128,994,636
	特定資産(教育パウチャー事業等実施積立資産)	125,475,303
	公益目的保有財産	3,309,216
	その他固定資産	210,117
資産の部合計	145,881,183	

	科目	金額
負債の部	1 流動負債	13,828,843
	未払金等	13,828,843
	負債の部合計	13,828,843
正味財産の部	1 一般正味財産	6,577,037
	(うち当期一般正味財産増減額)	0
	2 指定正味財産	125,475,303
	(うち当期指定正味財産増減額)	12,474,448
正味財産の部合計	132,052,340	

\*有形固定資産の減価償却累計額は1,227,049円です。

貸借対照表、正味財産増減計算書(損益計算書)及び財産目録は、法令及び定款に従い、法人の財産及び損益の状況を適正に表示しているものと認めます。

監事 津久井 進  監事 藤井 美明 

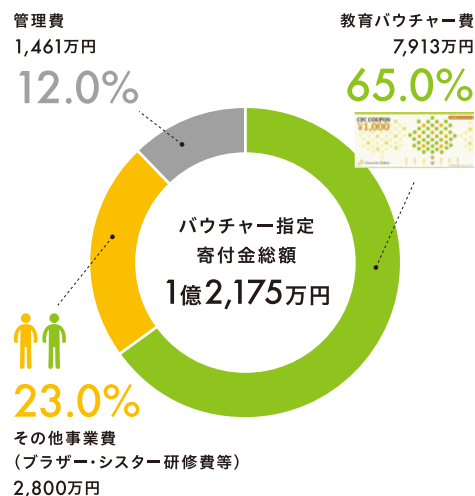
## 2015年度にいただいた指定寄付金等の使途

### 2016年度は9,605万円分のバウチャーを454人の子どもへ提供

2015年度にいただいた学校外教育バウチャー指定寄付金・会費・民間補助金1億2,175万円のうち、65%にあたる7,913万円を2016年度に提供する教育バウチャー費として使用します。2016年度は、この7,913万円に過年度に提供したバウチャーの未使用分等を加え、総額9,605万円分の教育バウチャーを454人の子どもに提供する予定です(2015年度は7,815万円分のバウチャーを373人の子どもに提供)。寄付金の23%に当たる2,800万円を、バウチャー利用者の募集・選考費、プラザ・シスター研修・面談費、調査研究費等の事業費として使用します。

#### 学校外教育バウチャー指定寄付金・会費使途に関するお約束

- 1 寄付金の85%以上\*を子どもへの直接的な支援費として使用します  
※65%以上を教育バウチャー費、残り20%程度をその他事業費(プラザ・シスター活動費、調査研究費等)に充当。
- 2 寄付金の15%未満を法人の管理費\*として使用します  
※子どもたちを間接的に支えるための費用。管理を行う職員の人件費、広報費等。



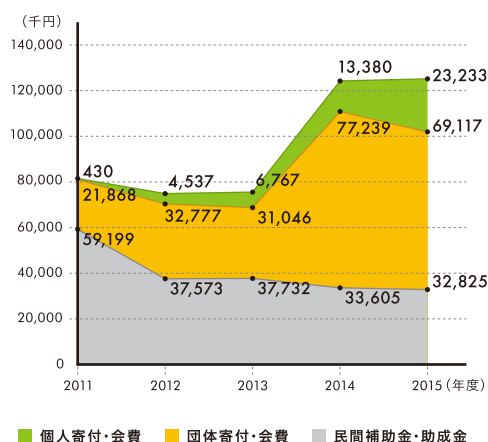
## 寄付金・会費・助成金収入の推移 (※正会費、運営費指定寄付金、受託収益、雑収益を除く)

### 個人寄付金・会費が1,000万円増加

CFCの財務面の課題は、収入の大部分を数社の企業や団体による大口寄付に依存している点です。そのような課題に対して、CFCでは2014年度より、個人の皆様にも支援の輪を広げるための施策(講演活動や白書の発行を通じた社会課題の可視化)に力を入れてきました。その結果、2015年度は個人寄付・会費が前年よりも約1,000万円増加(前年比約70%増加)しました。

### 企業・団体寄付、民間助成金が減少

個人からの支援が拡大する一方で、企業・団体寄付・助成金は約900万円減少したため、収入全体としては2014年度と比べてほぼ横ばいとなりました。現在支援を継続していただいている寄付者の皆様に支援をこれからも継続していただくとともに、更に多くの方々に支援の輪を広げるために、2016年度はシンクタンクと協働して、バウチャー事業の「ソーシャル・インパクト・レポート」を発行し、事業成果の可視化に取り組みます。

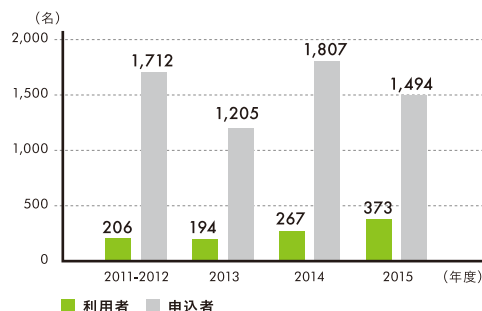


## バウチャー利用者・申込者数の推移

### 2015年度も1,494名の子どもから申込み。5年で5,178名が落選。

寄付等の拡大により、バウチャー利用者数は、増加傾向にあるものの、毎年定員を大幅に超える子どもからの申込みがあります。2015年度は1,494名もの子どもたちから申込みがありました。5年間で計5,178名の子どもたちが落選しており、多くの子どもたちがCFCの支援を待っています。2016年度は、計500名の子どもへのバウチャー提供を目標として、寄付金の募集を行います(2016年度寄付金収入の目標:1億5,000万円\*)。また、自治体や政府への政策提言を行い、公的資金を活用したバウチャー事業の実施を目指します。

※一人当たり30万円(バウチャー費用、事業運営費)が必要と仮定して試算



# 中長期ビジョンと2016年度の活動

## 長期ビジョン(～2020年)

全国の自治体等と連携し、国内の子どもたちの  
教育格差の解消を目指します

日本国内の子どもたちの教育格差を解消するために、全国の自治体や民間企業・団体と連携し、学校外教育バウチャー事業を広げていきます。

## 中期ビジョン(～2017年)

事業の精度を高め、学校外教育バウチャーの  
モデルを確立します

教育格差の問題が深刻化している東日本大震災被災地に経営資源を集中させ、より効果の高い制度を再構築するとともに、被災地の自治体等と連携し、教育格差の解消を目指します。

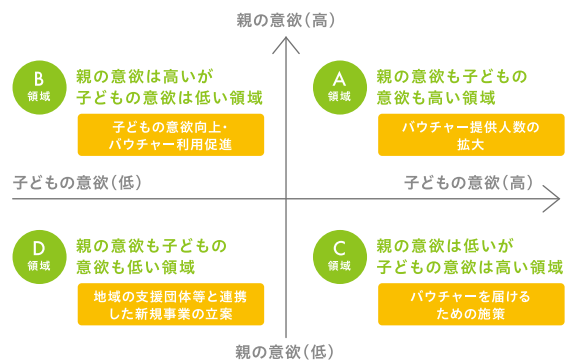
## 2016年度の活動

### バウチャー提供人数の拡大と、子どもたちの個別的な支援に取り組みます

より効果的な支援活動を行うために、支援対象の子どもたちを4つの領域に分類しています。

現在の学校外教育バウチャーの提供が有効なA領域の子どもたちについては、一人でも多くの子どもにバウチャーを届けることが課題です。これまでに5,000人以上の子どもが落選していることを重く受け止め、寄付金の募集の強化や、自治体への政策提言を行います。

また、子ども本人の意欲が低下しているB領域、親の意欲が低いC・D領域の子どもたちについては、大学生ボランティア、教育事業者、自治体、学校、地域の支援団体等と協力しながら事業を展開し、より効果の高い制度を再構築します。2016年度は、次の取り組みを行います。



※子どもの意欲=学習意欲・進学意欲 ※親の意欲が低い状況の例:教育への関心が低い/病氣等の理由で子どもに関心が向けられない等

#### B領域の子どもを支援するための施策

2015年度に引き続きブラザー・シスター事業の強化に取り組むとともに、2016年度はバウチャー利用先の拡充を図り、子どもたちがよりバウチャーを利用しやすく、教育効果の高い制度を作ります。

##### ①ブラザー・シスター制度の強化

2015年に引き続き、子どもたちを支えるブラザー・シスターの研修プログラムや面談方法の改善を行い、子どもたちへのフォローアップをこれまで以上に強化します。

##### ②バウチャー利用先教育事業者の拡充

バウチャー取扱教育事業者の登録制度を改善し、幅広い教育事業者に参画していただくことで、子どもたちの選択肢を広げます(主にICT教育、体験活動分野等)。

#### C・D領域の子どもを支援するための施策

2015年度は、仙台や石巻地域の支援団体とのネットワーク構築に努めました。2016年度は、それらのネットワークを基盤に、新しい支援事業の設計やリサーチ等を行います。

##### ①生活支援団体と連携したバウチャー提供(C領域)

子どもや親の生活支援(食事・居場所提供等)を行うNPOと連携して、親の意欲が低い子どもたちに対してもバウチャーを提供できる体制を作り、生活支援と教育支援の連携を目指します。

##### ②新規事業の立案準備・リサーチ(D領域)

将来的に、多様なセクターと連携して子どもを支えるための新規事業を開始します。その準備として、2016年度は、支援団体や子どもたちのリサーチを行います。

## 大規模災害被災地でのバウチャー制度の創設について

2016年4月に発生した熊本地震を受けて、CFCは今後大規模災害発生時に、被災した子どもたちに対する緊急支援として、学校外教育バウチャー提供を行う制度を新たに創設しました。2016年度は熊本地震で被災した子どもたちに学校外教育バウチャーを提供します(2016年8月よりバウチャー提供開始予定)。



## 報告書の制作にご協力いただいた皆さま



写真撮影

**安田 菜津紀さん** フォトジャーナリスト

studio AFTERMODE所属フォトジャーナリスト。現在、カンボジアを中心に、東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で貧困や災害の取材を進める。1987年神奈川県生まれ。



取材・ライティング

**辻 和洋さん** ライター・エディター

元読売新聞記者。東日本大震災では、発生翌日から宮城県沿岸部を取材。現在は大学の研究所で、人材育成の教材を開発。kaz.0402@gmail.com



デザイン/制作ディレクション

**サイカンパニーさん**

NPOを専門としたデザイン会社。多くの団体の、ブランディング、WEBサイト、パンフレット、年次報告書などを手掛ける。www.saicompany.jp

## 公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン

仙台事務局 宮城県仙台市青葉区本町1丁目13-24 錦ビル7階

東京事務局 東京都江東区亀戸6丁目54-5 小川ビル2階

関西事務局 兵庫県西宮市甲風園1丁目3-12 カミヤビル3階

TEL: 022-265-3461 (代表) FAX: 022-265-3471 (代表)

E-mail: info@cfc.or.jp

CFC

検索



チャンス・フォー・チルドレン (Chance for Children)



@bh\_cfc